

漢民族が戎狄の支配下に立つに至りしは其武力の彼に如かざるによるに在りと雖も然れども文物其他の社會的制度に於ては彼等に優越する幾十等なるが故に征服者たる戎狄は被征服者たる國民に同化せらるゝを以て歴史上の通則とす而して之等同化作用の行はるゝやいつしか保守的風習の出現し來り保守主義は被征服者たる文明國民が征服者たる蠻族に打ち勝ち得る唯一の武器として暗々裡に其勢力を保つに至る彼の堯舜文武の道を祖述するを以て主義となせる儒教の發現はそも之等の社會的關係に基くものにして而かも儒教崇拜の今日尙ほ盛んなるは其半面に於て這個社會的關係の繼續を證明するものとす漢民族が彼の鴉片戦争を始めとして近世屢々外人の打撃を受けたるにも拘らず常に因循固陋に安んじ頑として歐米文明の制度を採用せざるに想到せば歴史的情力も亦た大なりと謂はずや

斯くの如き歴史的關係を有するは獨り支那國のみならずして亞細亞大陸に於ける其他の文明國も亦た悉く之れと同一の境遇を経過せり例へば彼の印度がモンゴル朝に波斯がセルジーク、土耳其及び蒙古に又たシリヤ、小亞細亞并に

埃及の諸國がオスマン、土耳其に支配せられたるが如き北方蠻族の支配と共に其國民をして一般に愛國心の消滅と固陋守舊の習俗を生ぜしめしは最も注意を要すべき點にして亞細亞大陸諸國が今日の文明に駢進すること能はず而かも衰頹不振の悲境に沈淪しつゝあるは如上の歴史的關係に因するものにして而して此歴史的關係の最大原因は亞細亞中央の曠野砂漠が常に武力ある蠻族を發生せしめし地理的理由に因るものなり

眼を轉じて我が日本帝國を見るに其境遇全く大陸諸國と異なり温帯の圏域に位するが故に其氣候は北方蠻域の如く沍寒ならず又た南方文明の發源地の如く酷暑ならず五風十雨の天澤に浴し其地勢は大陸に沿ふて北より南に走り其韓半島を隔て、虎視眈々將に亞大陸を呑まんとするの形を成す日本帝國の大陸に對する地理的位置は斯くの如く孤立するが故に過去に於て如何なる歴史を有し又た將來に於て如何なる歴史を有すべきかは地理既に其大半を説明せり而して此國土に據り國家を建設したりし吾人大和民族は地球上如何なる種族に系統を引けるやを探究せん此偉大なる日本國民を作り出だしたるもの

は言語學者の所謂ウラル、アルタイ種に屬するものにして彼の朝鮮人、滿洲人、蒙古人、土耳其人等と同一系統に屬す之等の民族は歐洲歴史に於てスキタイ、タルと稱へ支那歴史は一に之れを戎狄と呼べり論者或は我が大和民族を目して之等劣等民族と同一視するは帝國民に對する侮蔑の言なりとなすと雖も斯かる論者は未だ之等民族の短所のみを知りて長所を解せざるものと云はざるべからず抑も世界の歴史を視るに古より武力によりて大帝國を建設したるものは主として斯種の民族にかゝり亞細亞大陸の運命を左右し或は歐洲諸國に大變動を與へたるものも又た實に斯の民族なり而して我が大和民族が古來強勇にして生命を輕んずるの特性は後に説く他の事情に職由する多しと雖も亦た一方には斯の民族に特殊なる血統上の美質に因るもの多し去りながら一國民の性質は血統上の關係のみによりて決定せらるべくもあらず又大に其國民の接觸する外界の事情によりて左右せらるる今試みに一例を擧げて之れを立證せん彼朝鮮國の曾て高句麗と國稱したりし當時唐の太宗を敵とし其大兵を擊破して斯國民本來の強勇なる性質を發揮したりしにも拘らず今日大ひ

に憫むべきの状態に陥りしは斯れ全く此半島國が北狄、支那并に我が國の三強國間に介在し絶へず其壓迫を受けて衰弱せる結果たるに外かならず之れに反して我が日本帝國の強勢比なく今や世界人道の爲めにそが指導者たらむとするの慨あるは亞細亞大陸の波瀾以外に卓立せる地理的、事情と斯の慄悍なる國民が前古一系不易の 皇帝を拜戴する歴史的事情とに由るものにして就中大和民族の團結力は後者の關係因子によりて一層鞏固とはなれり斯くの如く一方に於て内部の民族を結合せしむると同時に他方に於ては亞細亞大陸の諸國に對して政治上獨立の地位に立たしめたり而して日本國民の皇室に對する關係は宛かも一家屋の大黒柱に於けるが如く國民は此支柱する皇室を生命として互ひに相ひ結合す而かも其の結合力の性質は玻璃の如く脆堅なるにわらずして強度の弾力性を有するものたるを知らざるべからず故に日本社會は外敵の有無如何により張弛伸縮の状態を出現し若し此結合力にして伸張するときは皇室の威力昌んに現はれ之れに反して縮弛するときは一見威力の薄弱なるかを疑はしむと雖も皇室の威力と社會の結合力は其實體に於て何等

毫も變異あるなし

之れを國光に徴するに往古に於て最も外國と頻繁の交際をなし而かも皇室の威嚴の著しく顯現したるは 神功皇后并に 應神天皇の御宇にして任那は我國の屬國となり新羅及び高麗は附屬國若くは朝貢國となれり降つて 欽明天皇の御宇任那は新羅に併有せられ 齊明天皇の御代には唐國新羅と戦つて志を得るに至り爾來我國の外交日に衰へ 醍醐天皇の朝に及んで新羅の朝貢絶え渤海亡び遣唐使の派遣息み茲に外交全く杜塞するに至るや藤原氏の專横となり源平二氏の争奪となり源賴朝幕府を鎌倉に開くに及んで兵馬の大權全く臣下に移れり然れども皇室は依然として常に國家の中心なるが故に一朝我國の存亡に關するが如き大變に遭逢するときは忽ち其威嚴を顯現す彼の北條時宗執權の當時蒙古の忽比烈漢民族を征服したるの餘威を以て我を呑まんとするや我國民は直に結合し彼大兵を魚腹に葬り以て邊境を一掃したりし建武中興の政治は斯の動機より發したる現象に外ならざりしも宛かも彼の元寇は一の彗星の如く忽然として出現し忽然として消失せしが故に足利氏又た賴朝の

故智に倣ひて其政權を掌握せり應仁以降歐人漸く我國の國情に通じ竊かに窺ふ所ありしも彼等は宗教及び通商の如き平和的手段に出でしを以て左まで我國民の驚慌心を惹起せしめずして欺みにき豊太閤の韓國を討伐し餘威を亞細亞大陸に輝かせしは大和民族膨脹の好個適例なり天若し假すに十年の餘命を以てせば或は知らず漢民族は吾人の正朔を奉じたるならんを徳川氏の鎖國主義を執り努めて外界の刺衝を防ぎしは自家の權勢に懸々たりし秘策にして之れが爲めに大和民族の膨脹性を頓挫せしめしは方今史家の憤慨する所なり幕末外交漸く繁く嘉永年間米艦の浦賀入港は上下一般の狼狽となり海外の壓迫に對する防禦的手段として皇室の威嚴亦た再び顯現し來り國民は打つて正當なる君主の下に一丸となり茲に維新の大業を成就せり

維新大業の成就と共に大和民族は旗鼓堂々世界競争の巷に臨めり換言すれば又昔日の如く武陵桃源の樂地に惰眠を貪ぼる能わざるの地位に立ちたると共に皇室の威嚴益々發輝し來り忠君愛國は國民の平生服膺すべき至美至高の道徳となり君國の爲めに身命を犠牲に供するは吾人臣民たる者の本分にして且

の名譽なりとの信念を層一層深からしむるに至り日本兵士の強勇にして愛國心の旺んなるは日清戦役の當時に於て歐米人を喫驚せしめしのみならず亦た現下の日露戦争に於て益々之等至高の美風を發揮せり之等の美風に關し論者の多數は單に大和魂の發現なりとして此氣魄其物の發生せし原因を闡明せしもの少なきも余輩の見る所によれば我が國民の特に獨り此美風を有するは北方民族が普遍的に有する尙武の氣質と我が國土によりて發生したる忠君愛國の念則ち國家の結合力との融合したるものなることを而して我國が亞細亞大陸の諸國と全然其の趣向を異にし旭日冲天の勢を以て見るく強盛を致せるの原因は一に斯の精神による

以上論述せし事情は元より我が國性を形成したる根本的因子なりと雖も若し夫れ單に之れのみならず乎我が國民たるものは何等趣味なき強勇の民たるに過ぎざりしならんも幸にして我が國民は古より朝鮮支那の如き文化の邦國と交際し常に其文物を輸入して我の短所を補ふことに努め以て今日の圓滿なる社會を出現するの素地を造り得たり左に其經過を一言する蓋し無用にあ

らざるべし

我が國民の初めて大陸文物に接觸したる時日は甚だ詳かならずと雖も漢民族の文明は早く既に東方に輸入して彼の禹の時代に於て遼東の地は九州の一なる青州に編入せられ殷の時箕子朝鮮に封ぜられたるの事實より推測すれば吾人の祖先は夙に南方支那の文物に觸接したるを知るに足る其後漢の武帝朝鮮を亡ぼし半島の北半を擧げて漢の郡縣となせし當時に於て我國民と交通したりし事は歴史に之れを證明する所又支那の南北朝の頃韓半島の地は高句麗百濟新羅任那の四國に分たれ我國は新羅百濟任那の三國を略有し北の方高句麗を征服せむとせり當時高句麗は蒙古種なる北朝の托跋魏に臣隸して以て我國の吞併を通れ茲に又百濟は魏の敵國たる南朝晋宋に朝貢我國に從屬する以外に於てして高句麗に對する權力の平均を保ちたり之等政治上の關係よりして我が國民は百濟と南朝國史に吳國とに頻繁の往來を繼續し以て純粹なる漢土の文化を承繼せり其後支那國土の隋に統一せられ次で唐の代に至るや漢民族の文化は其極度に達し空前の盛況を呈したるの時に於て彼の遣唐使の渡航と

共に幾多の僧侶學生は漢土に留學を命ぜられたり而して亞細亞大陸文化の精英とも云つべき支那印度の文物は彼等僧侶學生によりて我國に傳へられ大和民族は茲に北方強勇の特質と南方文物の精粹とを一身に結合してありとあらゆる亞細亞大陸の美質を秀麗なる國土の上に採集し殆むど之れを獨占したり論者或は我國維新以降に於ける長足の長歩を見て單に泰西文物の輸入に歸すと雖も斯くの如きは我國發達の歴史を解せざる淺見者流の言にして彼の歐米人に接觸せし亞細亞の諸國は獨り我國のみならず否な寧ろ我が國民の彼等と交際せしは他の諸國民よりも最も淺し然るに獨り我國のみが其文物技藝を習得し一躍して歐米列強の伍班に列せしは我れに於て之れを咀嚼する素養の缺如するなかりしか爲めなり然り我が國民は業に既に亞細亞に於ける唯一の文明國民として而かも其精神的修養の點に至りては寧ろ却つて歐米人を凌駕せしものあるを論者若し夫れ一度ハ斯點に想到せば徒らに歐人崇拜の囁語を吐くなきに至るべし

前きに一言せしが如く亞細亞大陸諸國の衰頽せしは實に北方蠻族の侵害に在

り若し夫れ我國の地位が他の諸國と同一の地理的關係を有したらむには知らず果して今日の隆運を見るを得るや如何獨り我國のみが此不幸に遭逢せざりし所以は吾人學者の大ひに考究すべき問題なりとす而して先づ斯問題を解決せんには我が日本帝國に接近せる大陸の地形と并に其國相互間の關係を知らざるべからず大陸地方より我國を襲はむとする二大勢力は漢民族及び北狄にして之等の二民族は地理的事情によりて互ひに其國性を異にし萬里の長城を界域として常に敵對的關係を保てり則ち此關係鵝蚌の争を盛ならしめ我國の危険を輕からしめたる所以にして若し我國土が此勢力と直接の接觸を保ちしならんには二勢力の消長に伴ひ絶へず其波動を受けしや必然の事に屬す然るに超然として此勢力以外に屹立せしは實に地理の賜なり

看よ漢民族の領土は長城の東端山海關を境として北の方渤海灣に沿ひ深く北狄の左翼に入りて遼東遼西(現今の盛京省)の一地域を形成り其南方長白山鴨綠江を隔て、韓半島に接せるが故に若し漢民族にして我國に侵入せんと欲せんか北狄を滅ぼし韓國を従へたるの後にあらざれば殆むど不可能の事と謂はざ

るべからず而して彼の北狄は後に茫々漠々たる西伯利亞の大陸を控ゆるが故に漢民族は一時或は之れを撃退し得べしと雖もそが根本的掃滅を敢てすることとは亦た全然不能の事に屬す斯るが故に漢民族は其最盛の時期に於てすら尙ほ其勢力の及ぶ所は韓半島の一地域に止まり野心滿々たる君主を以てするも遂に我が帝國を脅かすなくして歇めり然らば則ち北狄は如何北狄も又た漢民族と同じく我が帝國を壓迫せんとするには漢土及び朝鮮を征服し以て願後の憂を断ちし後にあらざれば能はず彼の元主忽比烈が漢土征服の餘威を以て朝鮮を威壓し我れに空前の無禮を試みたりしが如きは殆むど例外にしてそも亦た此無禮とても一時的性質のものにして決して永續すべきものにあらざり何んとなれば第一北狄の勢力は常に南方の漢族に注がれ南下して一度は漢土に入るときは忽ち漢民族の爲めに同化せられ武人的強勇の性格を喪失すると同時に長城の北方に遺されたる彼等北狄の同族は亦た期せずして獨立の國家を形成し以て南方に對抗せんことを試むるに至ればなり斯くの如き事情の關係よりして彼の遼東并に朝鮮の地は古より我が帝國の獨立上天然の城廓となり亦

た堅固なる堤防として大陸の波動を防ぎたり其今日露國南下の形勢より察して讀者の多數は滿韓の地を以て我が帝國の壘壁たらしめんとするは事新たらしく嗚々するを要せず之等地理的形勢は萬世に亙りて政治的關係を支配するものなれども蓋し昔時に在つては我が帝國を威迫せんとする大陸勢力の比較的薄弱なりしが爲め我が國民の注意を喚起する亦た従つて大ならざりしより日露開戦の直接原因として世人に知らるゝ所のものは滿洲の保全開放に外かならず而して何んが故に我國が夥多の財力多大の人命を犠牲に供し交戦最終の目的を達せんとしつゝあるかは上述の所論によりて之れを了解するを得む吾人は更らに進むで此の戦争の性質を闡明せむが爲めに當の敵たる露國の國情に就き聊か説く所あるべし

近世亞細亞に出現したる露國領土の全部は往古戎狄の邦國にして露國民自身も亦た其血液の中に多く戎狄の分子を備へたり露國の戦敗頻りに到ると共に彼は黃禍説を唱へて歐人の爲めに同情を得んとするの至愚を敢てせり彼の黃禍説を唱ふる其由來は往古蒙古人種より受けし大打撃を悸怖するに在りと雖も

彼等露人の多數は蒙古人と同一系統を有する戎狄若くはスラブの雜種兒たるに在り看よ南部露國に於けるステップの大平野は遊獵牧畜の適地にして此平原は實にスキタイ、サルマータ、フンネン、アラン、カザール、ペチヤネーグ、コサック等の亞細亞戎狄の領土たり彼の蒙古人の(成吉思汗)四周の蠻族を征服し長驅して露國を侵略するや殆びど露國の全部は二百年の久しきに亙りて黄色人の支配下に立てりイヴァン三世の蒙古人を撃退しスラブ民族の爲めに亞細亞戎狄の束縛を解きしが王の施せし專制的政治は實に蒙古の置土産とも謂ふべく歴代の帝王之れを遵奉して以て今日に及べり露國兵の眞髓たる又た其模範たる哥薩克兵は蒙古人の露國に君臨したりし結果として出現せしものにして彼等の比較的慍悍なるは北方民族の血統を有すればなり只だ獨り哥薩克兵のみならず露國民の大半は北方戎狄とスラブ種族との雜種兒にして彼等は常に侵略的勇悍を以て誇ると雖も其保守的にして愛國心に乏しきは亞細亞大陸の民族に普遍の特徴にして其原因は實に多數人種の雜婚に原因せり然るに之れに反し我が大和民族の進取的且つ立憲的にして愛國心の旺んなる皮膚の色素に於て

は素より黄色なるも其精神に於ては歐洲の文物を同化して高度の文明に達せり彼れ露國人の今日黄人禍を絶叫して大和民族を誣ゆる其の迂愚や寔に憫笑に堪へず

露人の始めて烏拉爾山を踰へ北方亞細亞に踏み入りしは彼のエルマークの遠征隊(一千五百八十一年)にして次でボルコフ及びハバルフ等の黒龍江地方に探險的遠征(一千六百四十三年同四十九年)を試みてより以來は支那國との國際問題を惹起して兩國民間の衝突亦た常に絶へざるに至り一千六百八十九年ネルチンスク條約によりて露國は全然黒龍江一帶の地を清國に還付せり野心多き露國而かも當時中興の英主彼得大帝の治世に於て何んの苦もなく黒龍江を抛棄せしは如何に帝の力を以てするも新興の清朝を威壓すること能はず之れに加ふるに内事多端の露國は復た黒龍江地方を顧みるの暇なく爾來一世紀有半露人は極東の侵略に對して何等の施策する所なかりき素より西伯利亞の大陸は無主の邦土なるが故に足跡の進むに任せ國旗を樹立する難きにあらず而かも其點々散住する土人は頑愚蒙昧なるよりして西伯利亞に對する露人の經

營は自然と戦ふに過ぎずして人類を敵とするにわらずネルチンスク條約締結の當時露人が大なる注意を西伯利亞に拂はざりしは其原因一に茲に存す清朝新興の餘威と内國多事の故とを以て露國は一時侵略的行動を休止したりと雖も一千八百五十八年北京政府の漸く漢民族の爲めに同化されむとするを見るや愛琿條約の下に於て黒龍江北部の地を得尋で一千八百六十年北京條約の締結によりて黒龍江州及び沿海州全帯の地を割かしめ以て滿々たる野心を達せむことを所期せり

然りと雖も露國は猶ほ清國を信じて世界有數の強國として畏怖を存せり焉むを圖らむ彼の二十七八年の日清戦役に於て脆くも日本帝國の爲めに擊破せられ之れと同時に尨大なる清國は露國の爲めに其鼎の輕重を悟らるゝの悲運に際會せり而して清國戦敗の結果は極東に於ける國力の均勢則ち北方の強族が漢民族を威壓するか將た亦た漢民族の爲めに北方強族の征服せらるゝかの問題之れなりに對し一異例(歴史上之等南北の二大勢力以外に懸隔したる日本國の爲めに擊破せられたる事實)を以て東方の歴史を飾るに至れり

日清戦役上の戦勝國として我が日本帝國は將來此均勢の破滅に伴ひ必然越るべき北方露國現今に於て北方の強敵は露國なり(の侵略的行動を沮止せむが爲めに清國をして遼東半島を割讓せしめ以て皇國獨立上の關門たらしめむとはなせり然るに皇國の企畫せし斯の雄圖は露佛獨三國の壓迫に遭逢して清國に還付するの遺憾を見たり而かも露國は茲に清國の黨みし易きを觀破し更らに一千八百九十八年恩惠的盡力(日本をして金州半島を還付せしめしは露國の恩惠なり)に名を借り北京政府に強請して旅順口及び大連灣を租借し以て殆むど極東の活殺權を握るに至れり斯くの如くにして露國は又た西伯利亞鐵道の一部たる東清鐵道を延長し全然滿洲を以て自國の根據地となすのみならず東方朝鮮の命脈を握りて日本帝國の死命を制し南の方清國を威壓してスラブ建國の目的を達せむことに汲々たり

茲に至り我が日本帝國は最早此苦痛を忍び得べきにあらず遼東還付に對する我が國民の臥薪嘗膽は將に酬ゆべきの秋至れり 聖天子宣戰の詔勅を發し玉ひしより以來茲に一年有半海に陸に彼れスラブを脅懲して皇軍滿洲の野に滿

ち意氣既に露帝都を呑まんとするの概あり媾和にあらずむば只だ夫れ彼れを屠りて世界文明の爲めに悪魔掃ひをなさざれば歇まず頑迷なる露國の當路者は尙ほ最後の必勝を云々して君側に侍するが故に皇帝は常に絶へず這個奸臣の言に盡惑せられ五里霧中に徘徊するの有様なりとは吾人敵ながらも亦た大いに吊せざるを得ざる所なり

露國民衆く兵強く武器精銳なりと雖も彼等の多數は其政治上社會上の關係に於て亞細亞の戎狄病に感染せり彼等の愛國心に缺如せるは健全無病の日本軍と戦ひ其到底勝利を博する能はざる一大原因とも謂ふべく彼が最後の敗北は却つて彼れをして文明制度を採用し秩序ある社會を構成せしむるに至らむ何んとなれば露國は領土廣大にして人口衆多なるに拘はらず之れと正反對なる日本帝國の打破を受くるは斯れ畢竟不鞏固なる社會組織少數の上流社會が自己の利益を圖らんが爲めに多數の國民を犠牲に供する組織によるものにして露國の侵略的なる專制的なる保守的なる并に愛國心缺乏等の諸國性は實に斯の關係に伴ふて起る状態なれば其戰敗の結果は最早從來の虚喝的手段を以て

外國を侵略する能はざるは勿論内政上の組織を更革して一般國民に參政の權利を與へ以て社會の結合力を鞏固ならしむべし斯くするにあざれば或は一部論者の唱ふるが如く露國は到底其分裂の不幸に遭遇せざるを得ず邦域の大なると共に露國は亦た各種の民族を包容せり之れを細分すれば五十有餘の民族あり就中其多數の上に於て其文化の上に於て他の民族を壓服するに足る勢力を有するものはスラブ民族にして現今スラブは全露國勢力の代表者とも目し得べく假令他の民族が打て一丸となり叛亂を敢てするあらむも彼等は到底スラブの敵にあらず而して世人或は現皇室のスラブ民族より出でしが故にスラブのみは君家の專制に甘んずべきを推測するならむも事實は決して然らず過去及び現在に於ける本國政治上の内亂は皇室に最も深き因縁を有するスラブ民族によりて醸され且つ醸されつゝあるを見れば四圍の事情亦た概ね之れを察知し得べきなり

翻て又た支那の國情を見るに其衰頹の原因は彼等國民の一般に懷抱せる保守的獨尊主義によるものにして彼等は漢土を以て世界文物の中心なりと思惟し

自から呼ぶに華國の名稱を以てせり素より漢土は彼の印度埃及と同じく世界文明の發限地にして其四周の民族は古來彼れの指導を受けしに在り吾人の前に説明せしが如く漢民族の他民族の爲めに征服せられそが支配下に立つるも其征服民族は被征服民族の同化を受け何日しか其固有の國性を喪失するに至る左れば漢民族は天下地上我れに及ぶの國民なしとの自負心を昂むると同時に亦た他の一方に於ては漢民族が四圍の蠻族を吸収同化する際に於て漢土從來の國性を滅失せざることを努めたるの結果は茲に益々保守的傾向を出現したり實に漢民族上下四千有餘年間の歴史は保守的獨尊主義によりて國性の滅亡を防止せし一大記録たるが故に直ちに之れを健忘せしむることは決して容易の業にあらず然れども輓近歐人との交際一層頻繁を告げ彼等の爲めに屢々屈辱を蒙り而かも日清戰爭以來は漸く迷夢覺醒の端を開き我が日本帝國に師事して世界の風潮に後れざらむことを期するに至れり若し夫れ今後百年の後は如何他に大故障の生ぜざる限りは清國も亦た露國に劣らざる強大の國家を構成するは識者一般の認むる所にして漸次國民的勢力の發展を所期すべ

く露清兩國が將來有望の發達を遂げ南北互ひに相ひ對峙するの曉は如何其衝突の燒點は必然滿洲に在り然るに我が日本帝國の獨力以て未來永劫に此土を守らむとするは策の得たるものにあらず然らば則ち如何なる方策の下に此土の實力を我れに收め永く其外患を斷ち兼ねて韓半島を維持するを得べきやと云ふに至つては滿洲全部(金州半島以北の土地)を擧げて世界の中立地帯となすに在るのみ而して假令此土の全部を中立地となすも日露戰爭の戰勝國として我に於て優先發言權を留保すべきは元より當然の事に屬す

國家の發展民族の膨脹に對する燃ゆるが如き吾人同胞の慾望は如何にして之れを達せんとする乎方今國際間の關係漸く鞏固となり國として無主の地なく徒らに侵略主義を叫んで他國の領土を蹂躪し其主權を及ぼさんとするが如きは到底不可能のこと、謂はざるべからず彼の歷山大王が大兵を帥ひて東の方面に達し其足の及び得る範圍に於て殆むど隈もなく土地と人民とを征服したることには素より大事業たるに相違なしと雖も而かも今日に於て倣ひ得べきのことにあらずシーザーの盛時東征西伐を企て羅馬帝國の基礎を固めたるは

又た素より史上熾灼の事跡たるに相違なしと雖も而かも現今に於ては到底再び企つべからざるのことに屬す彼得の企畫も豊太閣の雄圖も成吉思汗の志望も亦た同じく近世列國が到る所に其領土を獲得し茲に殖民を強制して以て今日繁榮の基礎を造りたるの事歴も現今に於ては蓋し亦た容易に模倣し得べきのことにあらず而して之等斯の極端なる侵略主義は最早過去の夢として史上に其蹟を残すのみ

極端なる侵略主義に代つて現顯せしものは論者の所謂帝國主義なりとす政治論上より此主義を解するときは素より領土の擴張を意味すと雖も經濟學上より之れを穩當に解しなば經濟上利權の伸張を主義とする商業政策にして他國の主權を侵害し他國の人民を驅逐し或は之れを戰滅して自國民族の膨脹を企つるにあらず平和の間に處し經濟上の競争に於て其勝敗を争ひ以て商業上の利權を獲得せんとするに在り苟くも國家民族の發展膨脹を以て念とする者は必らずや此主義に依り適切の施策なくむばあらず

茲に於て乎吾人は謂はむとす彼の歐米文明國が其政治上將た經濟上に權利の

伸張を企圖し國民的勢力の發展を促進する唯一の手段方法として彼等は如何の政策を把り以て其目的を達せむとしつゝあるかを則ち之れを内にしては百般商工事業の獨立を保持し之れを外にしては巧みに貿易上の利權を獲得せむとせり而かも輓近列國の政策は一意帝國主義の旗幟を押し樹て專念領土擴張に斯れ日も足らざるものあるが如し

前の菲律賓群島に於ける行動の如き露の北清一帯の域に跳梁の如き詮じ來れば事々物々一として帝國主義の實行にあらずして何んぞや列強互ひに軍備の擴張を斯れ圖りて以て均勢を維持せむとするの今日數千年後の未來を夢みて人類の樂土を説くが如きの愚は常識ある者の敢てなさざる所なり吾人は斯く豫期せり人類が悲の悲惨の慘たる戰爭は蓋し到底辭すべからざることを戰爭の害惡たる何人も能く之れを知る然りと雖も一國家として政治上の權能を有し一國民として同民族の膨脹を希ふ以上は之れに伴ふ自然の結果として武力の充實を期せざるべからず戰爭の辭すべからざるは今日の世紀も未來の世紀も吾人々類たるものゝ覺悟すべき所なり

一種の樂天觀に耽らるゝ詩人文士の所論は吾人之れを批評せざるべし苟くも國民として大なる性格を有し經濟上國力の發展を希ふ所謂文明の國家は如何のものを主觀して國家生存の最大目的を達せむとしつゝある乎自から目して高等の國民なりとする彼等歐米人は聞くも怖るべき戰爭を夢想否覺悟して人類が極惡なる殺戮を敢てしつゝあるにわらずや博愛主義を以て旗幟となせる彼等歐米人は淺薄なる宗教的觀念より耶蘇教國以外の國民を目して一も二もなく野蠻暴戾の種族なりと曲解し常に宣言して云へらく文明の神託は耶蘇教國の國民たるにわらざるよりは之れを享受する能はずと亦た云へらく耶蘇教國以外の國民は人類の苦樂を解せざる迂愚蒙昧亦た教ふべからざる奴隸に等しと噫斯くも忌はしき宣言を以て吾人を遇せしは實に近き過去までの事なり天國を夢む歐米人文明を以て自家のモノポリーなりと誇負する彼等歐米人は寧ろ却つて不文野蠻の未開人だに有るまじき殘忍を敢てして二等國三等國を玩弄するはそも將た何んが爲めぞや吾人をして殆むど云ふ所の餘地なからしむ

然り白哲人のみが文明國民たるの性格を具へ吾人黄色人は尙未だ蠻界を外脱する能はざる劣等民族なりとの偏量を抱きし彼等歐米人は近世漸く其曲解たりしことの自覺をなすと共に一種の畏敬を黄色人種の一部にこそ拂ふには至りぬ

東亞細亞の一強國として方今歐米人の爲めに衡量せられし吾人大和民族の近き過去日清戰役以前の狀態を看よ幸ひにして今日の印度支那朝鮮の如き窮狀に陥らざるものゝ彼等歐米人の爲めに實に國權の一部を蹂躪せられ泣くゝも彼等が云ふ儘に斯の帝國を支持せしに在り豈に圖らむ日清戰役の結果は吾人の前きに一言せしが如く俄然として我國の國權を伸張するに至り黄色民族則ち耶蘇教國以外の國民たるにも拘らず優に歐米の伍列に班するを得たり而かも之れと同時に歐米多數の識者は我が國力の實量を認め就中英國の如きは東洋所領の保安上帝國主義實行の關係に於て我れと其行動を一にせんとまづそが意氣込を昂め來れり

維新以降茲に僅かに三十有八年斯の驚くべき國勢の伸張は彼等誇慢不遜の

米人をして斯くも急激にかくも突飛に耶蘇教國の以外亦た天の福音を享くる國民ありと絶叫せしめぬ而かも日本帝國の勢力が近かき未來に於てそも那邊を着點として膨脹しつゝある乎政治上將た經濟上の關係に於て太平洋上天恵の地域を占むるのみならず文明制度の普及并に國家的教育の奨励は一般國民をして大國民たるの襟度を宏回せしめつゝあり日本帝國の一大飛躍は極東の將來に至大の關係を有するものにして吾人苟くも亞細亞の利益に浴して國運の發展を期するものは須らく常に日本帝國の行動に注意し以て之れに應ずるの策を施さざるべからずとは彼等歐米人の觀察なり歐米人士の我國を看ることも斯くの如し我が帝國の將來乘るべきの策果して如何斯れ論者の一般に研察を要すべき尤大問題なりとす

吾人は謂はむとす彼の日英同盟の出現は何むが爲めぞや曰く東洋の平和を支持し清國の獨立を確保するに在りとは實に同盟成立の大綱自なり彼の米國が國內充溢の資本を東亞細亞に放下せむとして各般政治問題の解決上日英と歩調を一にし専念只だ清國の開發に向つて施さむとするの態度を把持せるは清

國の開放を促がして經濟的活動の地歩を得むが爲めなり米國が曩きに日露開戦の前年滿洲に於ける露國の撤兵問題に關して強硬の態度に出でしが如きは經濟上の目的以外に於て何等求むる所あるなし然れども若し夫れ清廷が露國の虚喝に畏怖して彼れが強請を容るゝが如きに至らむ乎米國が從來開放する所の滿洲の門戸開放は得て望むべからざるは勿論北清貿易之れが爲めに杜塞せられ滿洲放資の目的之れが爲めに水泡に歸すあればなり米が對清貿易の將來を想像し露に向つて警告否な抗議を試みし所以決して偶然にあらざ

政治上に於ての日英兩國は公式の同盟を發表せしと雖も經濟上に於ては日英米三國を目して一の同盟國なりとするに適切なるを認めずむばあらず今吾人は幾多の實例を擧げて之れを證據立つべしと雖も茲には其の煩を避けそが同盟の由來せし一例のみを引證するに留めむ曰く彼の北清事變に際し清國貿易の杜絶は獨り我國民の危運たるに止まらず苟くも清國貿易に従事せし歐米列國民は亦た非常の損害を蒙り上海香港天津等の外國巨商にして破産したりし者の多數なりしは吾人の當時耳にせし所にして就中最も多くの損害を蒙りし

は英國商人なり當時英國の輿論は如何の傾向を以て清國及び我國を解釋したりし乎曰く北清事變以降清國貿易に於て至大の損耗を招きしは日英の兩國たるに在り日英兩國が清國の秩序挽回を企圖すると同時に貿易の回復伸張を企圖するは清國に對する兩國の職責と云ふべし政治上に於ける清國は今や列國環視の焦點に在ると共に商業上に於ても亦た彼等競争の中心とはなれり故に露佛獨は今後一層の聯合的勢力を以て日英兩國に衝り經濟上清國の主人公たらむことに努むるは洵に必然の事とす未だ曾て世界の商業場裡に於て後れを取りしことなき英國と雖も孤立以て支那貿易上に優勢を振はむとするは甚だ覺束なき次第とこそ云ふべし況ひや日本國の如き製造工場の大規模作業に經驗乏しく國費多端の結果として一般經濟界の沈滯を極め而かも資本の缺乏を訴ふるの今日假令地勢其他特種の利便を有するも直ちに立つて支那貿易の覇權を握る能はず茲に於て乎則ち日英經濟的同盟を協定し大ひに露佛獨に衝らずひばあるべからず英國は工業の技倆と通商の經驗と低利の資本とを有せり日本は此特長を有せざるも地勢の利便なると勞銀の低廉なると清國と人種

嗜好甚だしく懸隔せざる等の利を有せり今日日英兩國が長短相ひ補ひ利害相ひ持して清國市場に特角せば亦た以て露佛獨の後進を凌ぐに足るべく其之れをなすは只だ日英經濟的同盟に在りと

日英同盟の事實上に表彰せらるゝ以前英國は既に如上の見地を以て我が國民の意向を探りつゝありしに在り素より我が國民は清國の秩序を挽回する上に於て將來經濟的利權の扶殖を希望する上に於て英國の輿論に黨みするは辭せざる所にして我の寧ろ希望せし所なるを日英同盟の成立せしと同時に露佛獨の三國は如何に之れを解釋したりし乎露國一部の人士の如きは日英兩國を猜忌するの餘り斯の同盟を目して東洋の平和を破壊するものとまで極言せり爾來露國は我れ及び英の一舉手一投足を窺ふて海に陸に一種の示威運動をなし北京政府を脅喝して殆ど北清一帯の地を占領せり而かも露は尙ほ之を以て飽かず韓半島を擧げて滿洲同様の運命に葬らむとはなせり横暴既に茲に到る我が國民如何でか之れに耐へ得べき戰爭の途に辭すべからずして彼れを擊退し以て國威を四海に光被するには到りぬ

日英同盟に向つて無限の好意を表するは米國なり米國が晩近東亞細亞に國勢を延長すると同時に支那を目して恰適の放資國なりとし列國と共に其利益に害被せむとを欲しつゝあるの今日彼の露國は極端なる侵略主義に熱狂して事實上滿洲一帯の地を占領し而かも北京政府を威迫して幾多の罪惡を恣にするのみならず米が北清に於ける商業貿易の前途を阻塞せり米たるもの何ひぞ露國の横暴を拱手傍觀して彼れがなすの儘に放任せむや米が日英に對してあらゆる同情を寄せ支那の開発上直接に間接に露國に反抗せむとするの眞意は經濟上の目的に原因するものにして其政治外交の局面に於て露國の行動を否認する決して諍しとなさずかの嚮きに北清事變媾和談判の開始さるゝに際し我が帝國の清國に向つて償金割増要求をなさむとするや露國は我が要求に反對して謂らく若し日本にして特別の要求をなさば露も亦た之れに倣ふべしとの旨を述べたり當時露國は滿洲に注目する所ありて或は復もや特約を結ばむとするの形勢出現せしかば我國及び英米の三國は斯野心を防止せむが爲め一の新提議を公使會議に提出せり則ち償金は必ず金銀にて受取らざるべからず

この原則を立て列國の償金は償金準備金を以て支拂はるべく他の代償を加ふるを許さずとの箇條を議定書中に加へむことを發議せり然るに斯提議に對しては佛獨先づ反對の旗幟を樹て殊に露國の如きは三十九ヶ年間行動の自由を緊束せらるゝ所以なしとして絶對の反對を執りしが爲めに不幸斯の發議は遂に不成立に歸したり當時吾人は斯問題に關し爾かく思惟したる曰く償金と領土とは全然別問題なりと然るに露國は佛獨の後援を頼みて償金を領土に換替せむとせり爾來年を経ること二にして露國は着々斯目的に向つて進行しに殆むと滿洲を領有したり

米國が政治上の關係に於て露國の行動に一層の熱視をなすに至りしは一に只だ滿洲問題に存す滿洲の門戶開放を促がし清國の保全を完ふせむとするは素より其志たり米が清國問題の解決上日英と歩調を一にせるは些の野心を藏するに外ならずして清國を目して自國商品の大得意先又た自國資本の放下地と認むるに外ならず若し夫れ米が極東貿易に於て何等利害の關係を有せざる邦國なりせば露が如何に北清一帯の地に横暴を敢てすればとて彼れは決して之

れを介意せざるべし論者或は近時米國が帝國主義を標榜して菲律賓を呑み布哇を併せ東洋に迫り來れりと云ふと雖も彼れは露の如き不見向の野心を藏するにわらず亦た露の如く日英を敵としてまでも領土擴張に専念するにわらず論者復た云ふ米國は餘剩資本の放資國として支那を採擇せしに在れば所謂資本の勢力に借りて將來或は事實上支那の一部を占領するが如きことわらむと吾人は今日の形勢より之れを觀察して二者其一を擇ぶならむ乎第二者の寧ろ或は據るべき乎を信ぜむと欲す

經濟的帝國主義の發動は對外競争上避くべからざる施策として實に列國政府は勢力の許す限り軍備の充實に營々とし以て斯主義の實行に全力を注げり而して斯主義の實行は不知不識の裡に領土の擴張をなさしめしは近世歴史の證明する所にして爾かも晚近國民勢力の發展に伴ひ商業貿易の一層重要視せらるゝと共に又た益々國際的關係を繞密ならしむるに至り宛然平和的手段によりて自國利權の伸張に努むるものゝ如しと雖も斯れ只だ表面の裝ひたるに過ぎずして其裏面は則ち然らず武力の上に外交を置き以て毅然として侵されざ

るを期せり武裝的經濟政策の實行は今後一層の繞密を來すや知るべきのみ支那に於ける列國の有様は如何外交上あらゆる政略を敢てして一意利權の作振をのみ斯れ圖り礦山の採掘鐵道敷設及び港灣の租借を始め其他重要な政治的經濟的關係に關しては實に周到の講究調査を怠らずして以て其機先を制せむとし所謂武力の後援によりて巧みに自國の勢力線を延長せり茲に於て乎一部論者は業に既に聲言せり曰く支那分割と去りながら現今の状態に於て斯かる聲言の到底實行し得らるべくもわらず斯れ主力を經濟的活動に集め外國の競争をなしつゝある所以なり而して日英同盟の成立則ち其半面を窺へば露佛獨の野心就中露國の野心を控制せむとする外交政略に過ぎざるも亦た他の半面に於ては日英兩國は對清政策上利害關係を同ふするの國なり清國の秩序を挽回して國民の結合力を鞏固ならしめ彼我の幸福を増進せむとする換言すれば人道主義を基礎となせしに在り其今日識者が支那の現在及び將來に着目して漢民族の發展を期待しつゝある決して偶然にわらず

支那は方今實に列國環視の央點にして經濟的對清行動の一張一弛は列國の盛

衰に直接の關係を及ぼすと頗る大なるが故に列國は銳意極東問題則ち支那問題に現在及び將來に於て自國商工業の發達を期せむとはなせり支那豈に夫れ天下の寶庫たるにあらずして何むぞや言を寄す蘇西運河の開鑿と云ひ西伯利亞鐵道の敷設と云ひ今日將に成らむとしつゝある尼刺瓦運河と云ひ詮じ來れば支那貿易に促されたる大事業たるにあらずや而して尼刺瓦運河の開鑿さるゝ曉は如何世界の趨勢は我日本帝國をして極東貿易上の大媒介地たらしむるに在り彼を想ひ之を思ひなば我國民たる者の決して儉安姑息我は東洋の君子國なりとなご澄まし切つて居らるべきにあらず宜敷大國民的度量より打算一番し來りて平和の交戦分野則ち商業場裡に馳驅し恰かも日露戰爭に於けるが如く奮戦勇闘以て能く最後の勝利を制すべきなり政府も亦た須らく帝國の前途に留意し國民をして其嚮ふ所を知らしむるに於ては希くば吾人が希望を満たすに足らむ乎

嗚呼二も支那三も支那四も五も亦た支那なりとして歐米列國が東亞問題を講究し且つ東亞政策を實行しつゝあるはそも斯れ何むが故ぞや世人一度ひ

東亞史を繕き沈思熟慮懐ひを刻下の狀況に馳せなば庶幾くば極東問題を解決して我大和民族將來の膨脹を想察し得るを得む

既に然り然らば則ち帝國主義の實行は近世殖民に對する政治上の手段とも解し得べく領土の擴張并に市場の新設は國民の發展膨脹に對する半面の事實を表示し得たるものとも云ひ得べきなり然れども吾人は敢て殖民と云ひ殖民地の侵略と云はず斯れ侵略を欲せざるにあらず侵略の目的たるべき無主の土地なきを懷へばなり滿洲の山西伯利亞の野若し夫れ委棄せられて人の拾ふに任かさむには收めて以て此所に殖民地を作る何むの不可か之れあらむや

彼の英吉利のトランスバールを略取し合衆國の菲律賓群島を占領し露西亞が北方滿韓の山野を壓して威を極東に振はむとするが如きとも何むが故ぞや凡そ這箇の理由を解し得る者は亦た一方に於て平和的の殖民が所謂帝國主義の顯現たるべき理由を知悉し得む

殖民事業は之れを國家の施策に待つべき乎將た亦た人民の奮勵に依頼し其自らの發達に待つべき乎は殖民史の吾人に詳説する所にして彼のフイニシヤ希

臘時代の殖民は殆んど民族自然の膨脹に原因せしものにして國家の保護を仰ぎしが如きは皆無とも云ひ得べく中世に降り伊太利沿岸の諸都市が地中海の各地に其勢力を敷植したるも亦た多くば人民各個の勇進に基くものゝ如く更らに降りて近世に至りても亦た概ね然りと雖も其國家の之れに干渉し及び之れを指導したるの程度は近世殖民史に於て往々其形跡を窺ふに足るものあり殊に古今を通じて上に功名に急なる英傑あるに當つては先づ其軍隊を率ひて以て未開の地若くは他國の領土に侵入し然る後殖民と商業とをして之れに次がしむるを通則となしたるが如し

殖民は國權の伸張と伴はざるべからず國權内に屈して人民獨り各地に殖民の壯舉を企つるは難し然れども殖民史は國政其宜敷を得ず綱紀壊破したるの際に當り本國を脱走したる人民によりて數多の殖民地の成立したることを記述せり亦た殖民は人民自然の發展に俟たざるべからず國家の強制に依つて之れを創始するは難し然れども殖民史は屢々國家の政策により強制的に人民を移住せしめて以て後日繁榮の基礎をなせるの事實を説明せり果して然らば國家

及び人民と殖民地建設との關係は紛糾錯綜して以て別に一貫の理論を存せざる乎曰く然り時勢の變遷は一貫の理論に支配せらるゝものにあらず其國民移住の心に乏しき時にありても國家は先見の明を以て將來の計をなし國民をして強ひて移住せしむべきの時あり國權日に縮みて其商業を保護するの實力なき時に當りても往々人民の冒險的に海を渡り後援なき異域に殖民地を建設して以て將來國勢回復の助けとなすべきの秋あり然り而して我國の今の時は如何國權外に伸びて強大の武力を有し國民内に満ちて雄飛の志を抱く將に斯れ殖民を送るべき適當の時機となす

國民の性情によりて殖民上の成效に徑庭を生ずるは既に本論に於て之れを説きたり佛蘭西の國民が常に望郷の念を斷たず殖民地に永住するを嫌忌したるの結果と英吉利和蘭等の國民が平然として新天地に其慰安を求め得たるの結果とに於て大差ありしは特に記憶すべき所となす惟ふに我が大和民族は本來勇悍にして冒險心に富みたるに拘らず往時爲政者の失敗によりて優柔不斷の性情を備へしむるに至り今や日露戰爭の刺撃は漸く又た之れを改めしむるに

近づきたりと雖も而かも尙ほ其痕跡を留め偶々海外渡航を企て移住をなす者と雖も多くは數年若くは數十年にして相當の資産を獲本國に歸りて老を養ふを目的とする者多し斯くの如きは佛蘭西人が宏大なる殖民地を領して尙ほ容易に成功せざりし跡を逐ふ者と謂ふべく殊に佛蘭西人の如く未だ自國領としての殖民地を有せざるに於て尙ほ且つ墳墓の土地に戀々たるが如きは豈に大和民族たる者の一不名譽と謂はずして何ぞや去れば我國に於て國家民族の發展膨脹を所期し且つ其手段として殖民事業を振興せしめむと欲せむ乎先づ國旗の先導を以て人民を誘導せざるべからず而して人民は國旗の後を追ふて世界各地に移住し茲に永久的に其住居を定め以て殖民の基礎を造らざるべからず西諺に所謂商業は國旗に従ふとは洵に斯れ一面の眞理を道破したるものにして我が日本に於て的確に殖民を行ふの順序を説明したるものなり

之れを要するに政治上軍事上經濟上何れの點より觀察するも國家の發展民族の膨脹を企圖する上に於て殖民地の建設が最も希望すべき方策たるべきは曠々言を費すの必要なきに似たり而して其殖民地の撰定及び殖民地に對する政

策の如きは殖民事業の成否に大關係を有するものなるが故に苟くも經世の士を以て任ずる者は切に之れが研究をなさざるべからず

亞弗利加の大陸と南亞米利加の大陸とは共に斯れ殖民の最適地にして世界萬衆の環視せる一大寶庫なりと雖も而かも支那朝鮮及び西伯利亞は亦た更らに重要な地位に在り其將來に於て世界最大問題の此地方に出現するは吾人の之れを認むる所のもの而して我が日本帝國は其距離に於て相ひ近く其歴史に於て密接の關係あり而かも刻下の状態は如何朝鮮は既に純乎たる我が帝國の保護國となり露國又た滿洲の地を抛ちて松花江北に屈蹙せむとす滿韓の新天地は將に斯れ帝國國民の飛躍すべき天與の一大殖民地たるにわらずや若し夫れ將來大問題の論議せらるゝに至るあらむ乎我は當然の權利として最大の發言權を占有し表決權を行ふべきものなりとす一言以て斯論を結ぶ

殖 民 論 終

大正
三年

山崎正

明治三十八年六月廿七日印刷
明治三十八年六月三十日發行

殖 民 論

正價金壹圓四拾錢

著 作 者 山 內 正 瞭

東 京 市 神 田 區 今 川 小 路 一 丁 目 五 番 地

發 行 者 金 刺 源

東 京 市 京 橋 區 南 小 田 原 町 二 丁 目 九 番 地

印 刷 者 中 野 鏞 太 郎

東 京 市 京 橋 區 築 地 三 丁 目 十 五 番 地

印 刷 所 帝 國 印 刷 株 式 會 社

不 許 複 製

發 行 所

東 京 市 神 田 區 今 川 小 路 壹 丁 目 五 番 地 (電 話 本 局 七 六 六 番)

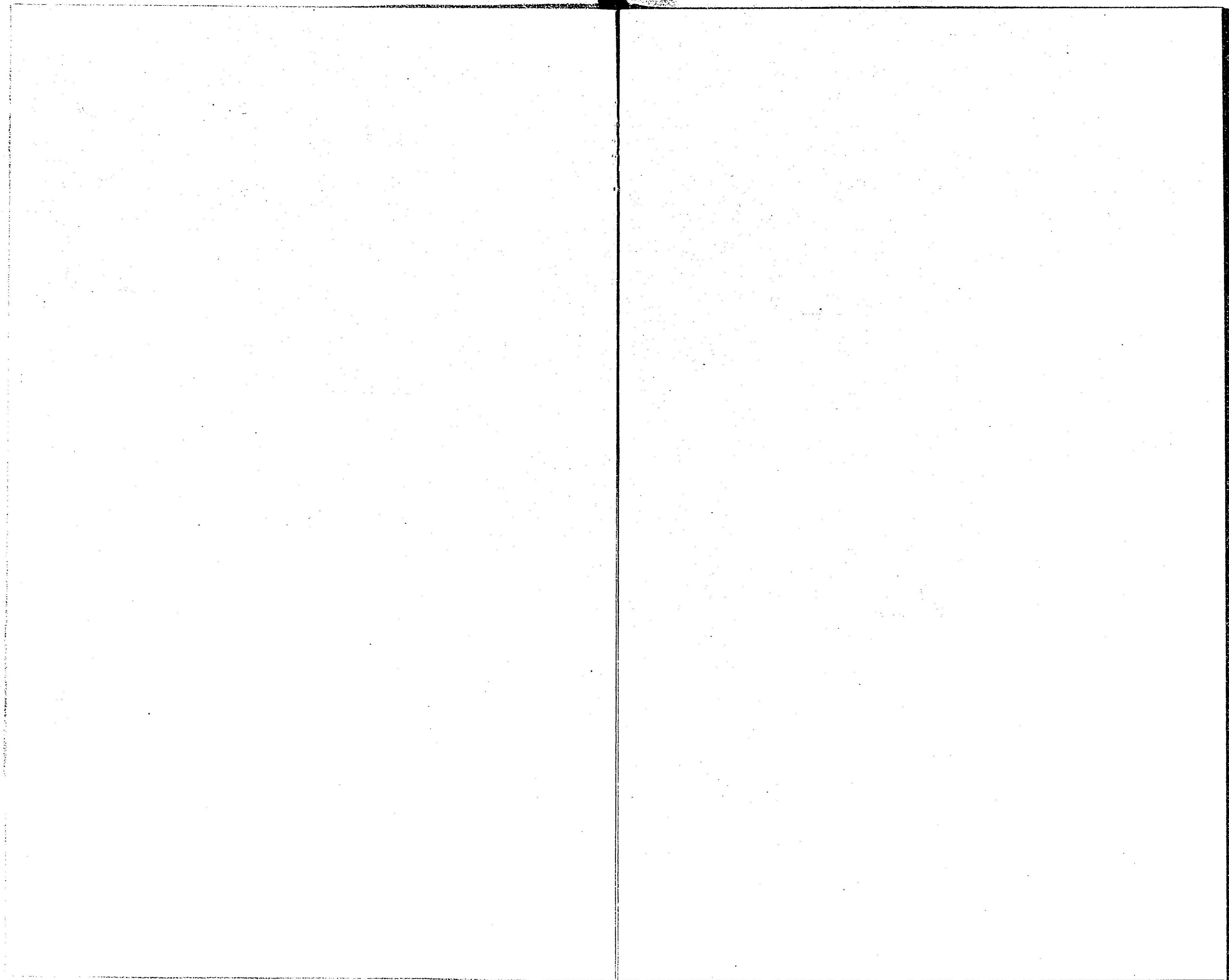
金 刺 芳 流 堂

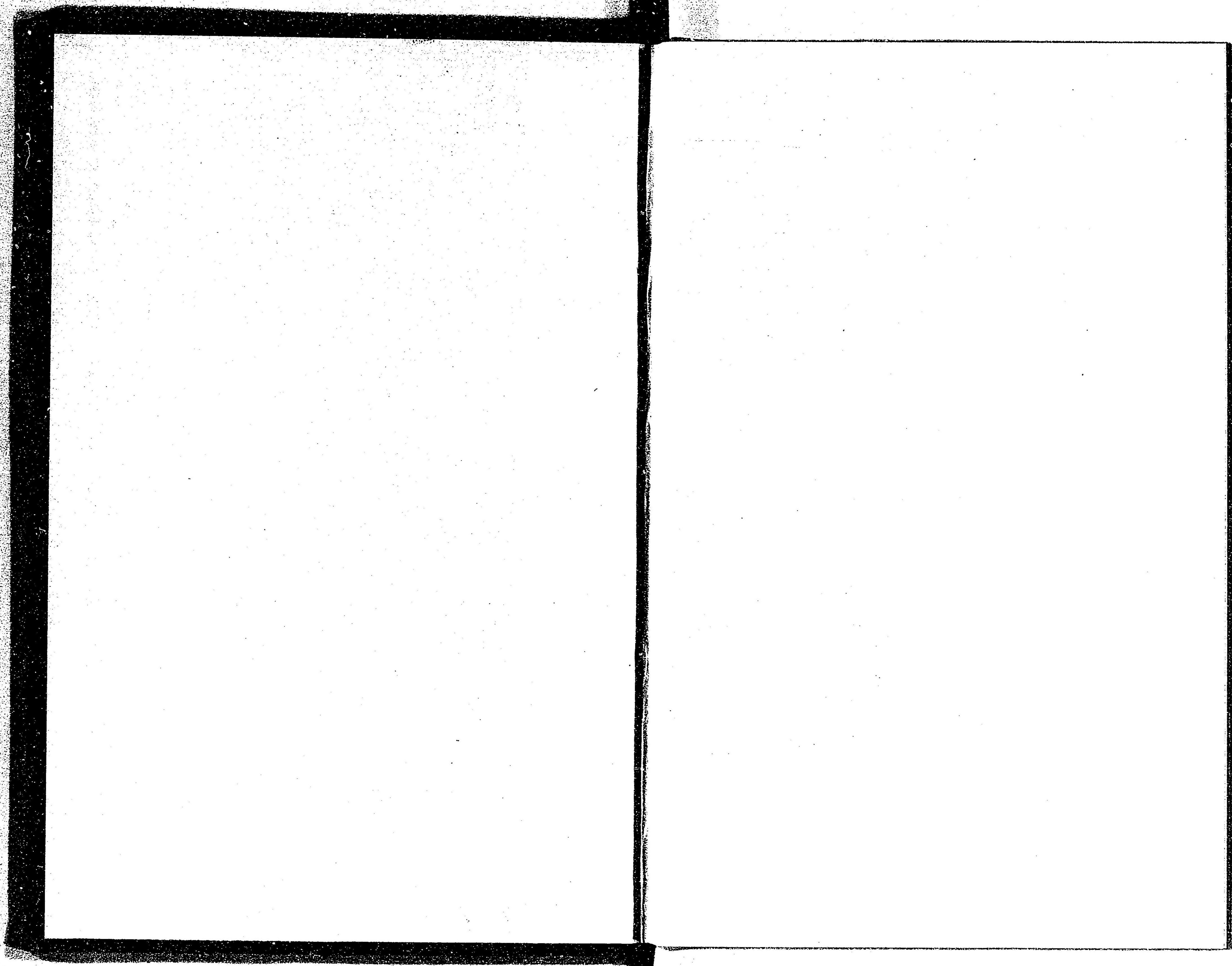
2/E-56

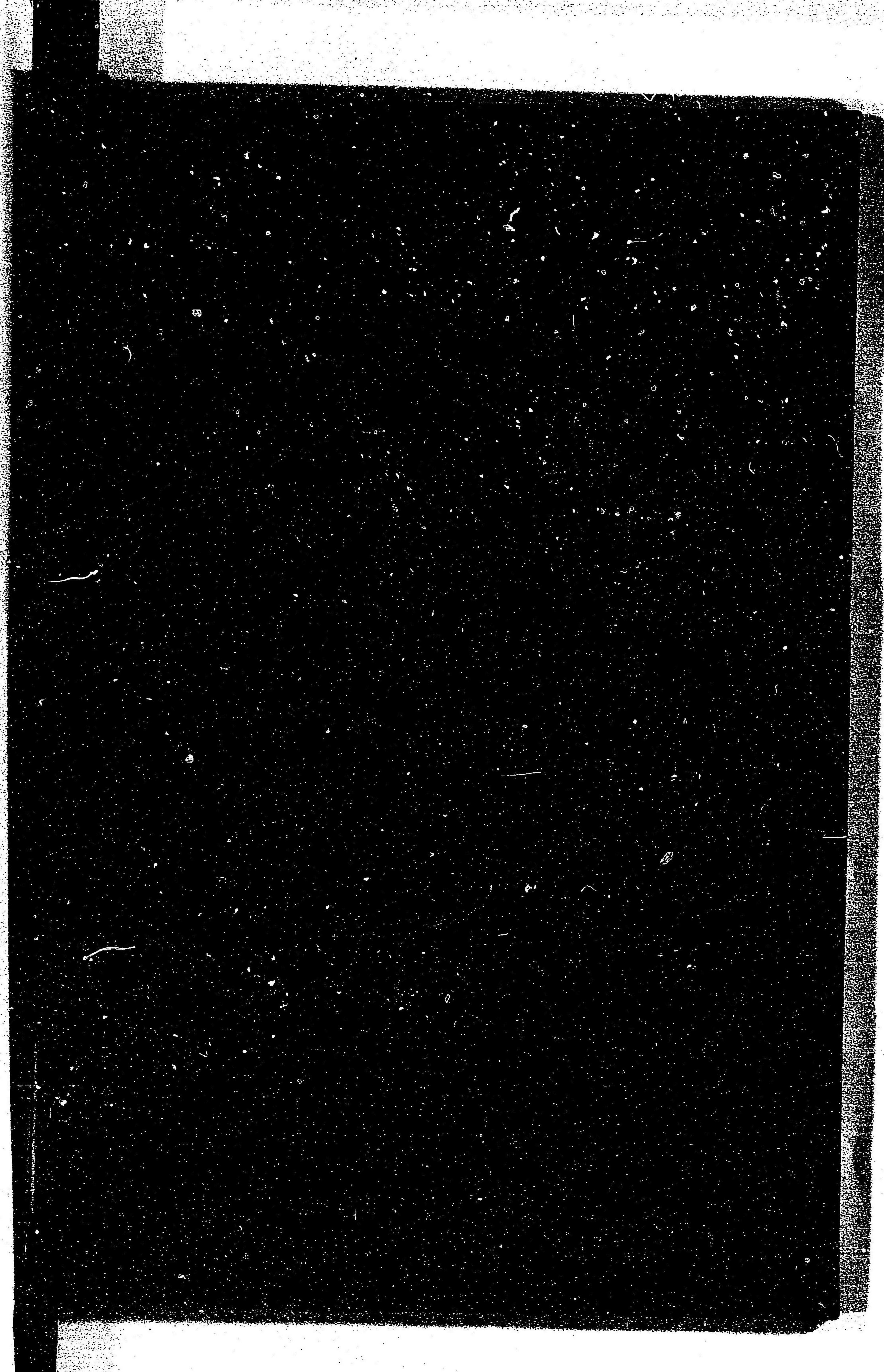
地方大賣場

大阪市備後町四丁目
 同市同町
 名古屋市本町三丁目
 京都市寺町通二條下ル
 廣島市鹽屋町
 熊本市新二丁目
 久留米市米屋町
 鹿兒島市松山通仲町
 仙臺市大町五丁目
 金澤市片町
 新潟市古町通七番町
 長野縣松本町
 福島縣郡山町
 盛岡市肴町
 札幌區南一條西二丁目

小谷卯三郎
 吉岡平助
 川瀨代助
 若林書館
 積善書次郎
 長崎書次郎
 菊竹書次郎
 久永金堂
 沽哉堂
 宇都宮書社
 北都宮書社
 松榮堂
 磐岳書堂
 佐々木書堂
 富貴堂







3347

Y421s

M

041459-000-0

334.7-Y421s

殖民論

山内 正瞭/著

M38.6

BDG-0061

